



料金別納
郵便



上田市議会議員 **上田大好き** 齊藤達也

たっさんかい

達参会ニュース

2024年(令和6年)第26号

発行人 達参会(齊藤達也後援会) 上田市中央2-20-12 討議資料
TEL&FAX 0268-75-0175 E-mail: t.saito.koenkai@gmail.com



令和6年能登半島地震により亡くなられた方々に心からお悔やみを申し上げるとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。上田市は「災害に強い」と言われてきましたが、3月議会では能登半島地震を教訓に改めて上田市における大規模自然災害で想定されている被害とその対策を確認しました。質問内容は①能登半島地震でも特に大きな課題となっている水の確保に関連して浄水場や主要な管路等の耐震化について、②トイレの確保に関連して上下水道が使えなくなっても一定期間は利用できるマンホールトイレの設置状況について、その他、③住宅密集地での災害対策、④中心市街地でのゲリラ豪雨等に対する治水対策・汚水逆流対策の現状、⑤消防団の仲間から提案のあった災害ボランティア登録制度の拡充等についてです。動画はこちらから視聴できますのでよろしければご覧ください。



問 上田で起こり得る最大規模の自然災害の被害想定と指定緊急避難場所及び指定避難所の収容数は。

答（総務）過去に発生した最大規模の地震は、1707年宝永地震、1847年善光寺地震、1854年安政東海地震、1912年上田地震があり、いずれも震度5～6程度。被害想定は、地震災害では糸魚川静岡構造線断層帯による地震を最大震度7と想定し、発生確率は100年以内で40～70%、被害は死者数2,000人、負傷者数2,180人、重傷者数1,140人、最大避難者30,320人、断水人口14,450人、停電件66,760件と想定。洪水・土砂災害では、浸水被害の最大値として千曲川流域の2日間の総雨量を386mmと想定し、最大10～20mの浸水が発生する可能性により、洪水氾濫の危険区域は41自治会に及ぶと想定。指定緊急避難場所74か所（屋外）の収容数は約20万9,000人、指定避難所66か所（屋内）の収容数は約1万9,000人を見込んでいる。

問 災害時に通常のトイレが使えなくなった場合に使えるマンホールトイレの設置状況と利用可能な日数は。

答（総務）指定避難所となる東小学校、第二中学校、第三中学校、第四中学校及び塩田中学校の5か所に設置している。指定避難所の収容想定数を基準として、1人1日5回の利用で試算した場合、2日半から4日程度は、水やくみ取りがなくても継続的に使用が可能である。

問 令和4年9月に質問した中心市街地の治水対策と汚水逆流対策の現状は。

答（都市建設）令和5年10月に神科台排水路の整備が完了し、下流域である中心市街地方面への流下量の抑制と浸水被害の軽減が期待できる。染谷第2公園内にある蛭沢川調整池は令和6年度に改修工事を実施する予定。

答（上下水道）汚水が逆流した現場付近の下水道管路でテレビカメラ調査を緊急で実施し、管渠更生工事は現在完了している。